

市立学校・園における耐震化について

川西市教育委員会

1 市立小学校・中学校・特別支援学校・幼稚園の耐震診断調査結果について

平成19年度に実施した小学校施設（昭和56年以前に建築の施設）、平成20年度に実施した中学校、特別支援学校施設（昭和56年以前に建築の施設）、平成21年度に実施した幼稚園施設（昭和56年以前に建築の施設）の耐震診断調査結果については、別紙のとおりです。

2 学校・園施設の耐震化について

川西市教育委員会の取り組み

学校園施設は、児童生徒の学習生活の拠点であるとともに、地震などの災害時には地域の方々の避難場所としての役割を果たす重要な役割を担っていることから、早期の耐震化が求められています。

このため、平成19年度には小学校、平成20年度には中学校・特別支援学校、平成21年度には幼稚園の対象となるすべての建物の耐震診断を実施し、その結果に基づく耐震補強設計、耐震補強工事を順次進めております。

学校園施設の早期耐震化については、市の重要施策として位置づけ平成27年度に耐震化率を100%にすることを目標に取り組むこととし、市の総合計画後期基本計画では平成24年度の耐震化率の目標を74.7%としています。

耐震化は国を挙げての最重要課題であることから、教育委員会では、今後も耐震化の推進に積極的に取り組んでまいります。

(1) 耐震改修優先順位の考え方

学校園施設の耐震改修を行うため、次の考えに基づき実施します。

☆ 基本的な考え方

① I s 値（耐震診断指標）0.3未満の学校園を優先します。

② 校舎棟を優先します。

多くの児童生徒等が一日の大半を過ごす学習、生活の場である教室を安全な環境にすることが必要不可欠です。従って、地震発生時においては、児童生徒等の人命を守るとともに、被災後の教育活動等の早期再開を可能とするため、教室のある校舎棟を優先します。

③ 次にI s 値0.3未満の体育館で、下が教室になっている重層階を優先します。

<体育館の優先順位>

川西市の場合、別棟で平屋タイプの体育館と教室の上が体育館になっている重層タイプがありますが、校舎優先の考え方から教室の上が体育館になっている重層タイプを優先します。

(2) 学校・園施設の耐震補強設計、耐震補強工事実施予定年度（※耐震補強工事実施予定年度は変更する場合があります。）

	I s 値0.3未満の施設	I s 値0.3～0.7未満の施設
小学校	平成20～24年度	平成23～27年度
中学校	平成21～24年度	平成23～27年度
幼稚園	(該当建物なし)	平成25～27年度